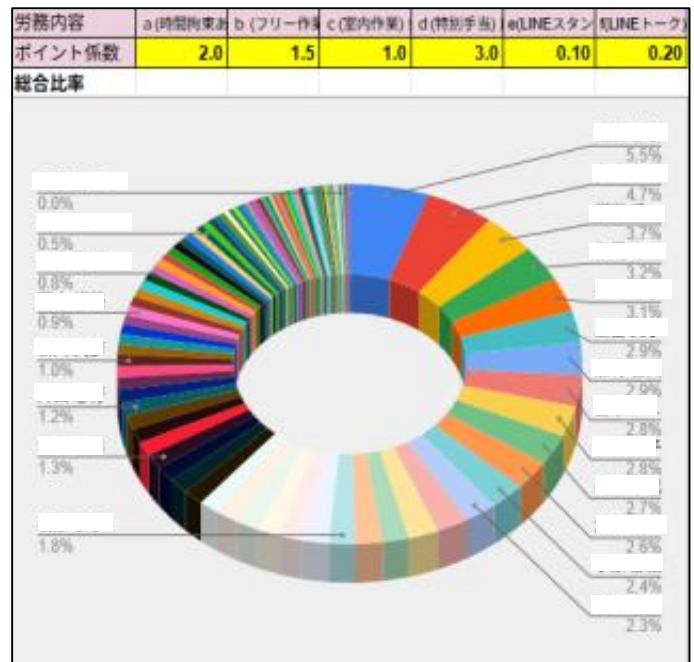




# ◇事例1◇ 町内会運営方式の工夫



## 詳細

北方未来 Webサイト



### ■ 事例内容

- ・業務委託契約で、まちづくり協議会に活動を委託
- ・部会形式をとり、事業計画・予算などで主体性を持たせている
- ・ポイント制度の導入、活動に合わせた謝金の山分け制度
- ・収益を意識した活動によるモチベーションアップ

### ■ 意識していること・工夫

- ・失敗を恐れず「まずはやってみる」姿勢と環境を大切にする。
- ・IT・AI技術で事務をスマート化し、本来の活動に注力する。
- ・義務感ではなく、個人のワクワクを地域貢献に繋げる。
- ・情報を公開し、役職に関わらず意見し合える場を作る。

### 町内会名：北方連合会

## 地域について

- ・人口：1,011人(65歳以上の割合：38.2%)【R8.1.31時点】
- ・基礎組織数：16町内会・1自治会
- ・役員任期：1年
- ・役員会等の開催数：12回/年  
(各部会：議事録181枚、LINEトーク4,161回)
- ・地域ビジョン：令和2年10月策定

## ◇事例2◇ 関係者・団体等を巻き込む工夫



大正琴の演奏会



研修旅行

### 詳細



#### 事例 ～もうもうカフェの運営について～

【目的】「歩いて行けるところで、おしゃべりができる場所」の提供

【活動資金】自治区の組織に組み込み、運営に対して助成金を交付

【法人化】法人税、法人県民税、法人市民税の支払い

【運営】毎週土曜日に営業、予約制による資材の調達の調整

月ごとのメニューの変更、ハンドメイド品や野菜の販売、地域情報の提供、スマホ教室の開催、月1回のイベント運営

#### 工夫していること

【情報発信】フェイスブックとラインを活用した情報案内・公開

【スタッフ確保】口伝えに退職し時間の余裕の取れる人への声掛け

【資金】スタッフ：ボランティア(賃金なし)としての協力

イベント：団体出演はご厚意で開催

【空き家活用】空き家の活用(草花やアサギマダラの生育環境の整備として活用)

【その他】独居高齢者に対して、安否確認を含めた電話連絡

### 地域について

町内会名：江木自治区

・人口：587人(65歳以上の割合：51.6%)【R8.1.31時点】

・基礎組織数：18組

・役員任期：2年

・役員会等の開催数：約20回

・地域ビジョン：令和3年1月策定

## ◇事例3◇ 次世代と連携する工夫



### 詳細



#### 事例 ～若手主体のイルミネーション設置事業～

【経緯】地域のPRとして、青年会からイルミネーションの設置について提案があり開始。世羅町と大和町を繋ぐ主要道路沿いに設置することで、町内外に対してPR。

同時にインスタグラムやフェイスブックも青年会が主導で開始。

【主体性】開催可否を含め、場所や設置時期について青年会に決定権がある。振興会へは、会で協議後に提案・報告する。

#### 若手との連携で意識していること・工夫

- ・お金は出すが、口は出さない(若手の主体性に任せる)。  
(毎年の電球の交換のための購入費は、振興会から出資)
- ・青年会への負担軽減のため、振興会の計画の委託という形をとる。
- ・青年会会長とは連携をするため、密な交流を持つようにしている。

### 地域について

町内会名：福田自治振興会

- ・人口：155人（高齢化率：56.8%）【R8.1.31時点】
- ・基礎組織数：2区
- ・役員任期：2年
- ・役員会等の開催数：6回程度/年
- ・地域ビジョン：令和4年3月策定



# ◇事例4◇ 実行委員型自治運営と広報戦略



※次ページに拡大印刷

## 詳細

### 交付金活用

広報誌(デザイン、印刷費)

## 事例内容

- ・「坂井原元気プラン実行委員会」を組織し、6グループに分かれて活動
- ・各委員会が自ら事業計画を策定し、予算要求まで行う自立した運営体制
- ・役員は予算査定・調整機能に徹し、現場の主体性を尊重
- ・各組総代がいずれかの委員会に所属し、地域全体で役割分担
- ・委員会に広報部門を設置し、各委員会の活動状況を継続的に情報発信

## 意識していること・工夫

- ・役員役割を明確化し現場の意思決定を尊重
- ・課題設定→企画立案→予算要求→実行→報告まで役割を一任
- ・「やらされ感」ではなく「やりたいこと」を実施し当事者意識を高める
- ・各組総代がどこかの委員会に所属し「他人事」をなくし、地域全体で取り組む
- ・広報は単なる報告ではなく、地域住民への理解促進・参画促進を意識

## 町内会名: 坂井原自治区

## 地域について

- ・人口 : 672人(65歳以上の割合: 51.3%)【R8. 1. 31時点】
- ・基礎組織数: 15組
- ・役員任期 : 2年
- ・役員会等の開催数: 組総代会6回/年、本部役員室8回/年
- ・地域ビジョン: 令和4年3月策定

## ▶▶ 子育て支援（2グループ）

坂井原夏祭りでは、親子で楽しめる祭りを目指して活動しました。

屋台では、スーパーボールすくい、フランクフルト、生ビールの販売を子どもたちが主体となってやりました。販売も3年目なので子どもたちは慣れた様子でお客さんに対応していました。

これからも坂井原子育て世代のつながりを広げていこう活動していきたいです。



## ▶▶ サロン運営（3グループ）

さんさん・プラザからのお知らせ

毎月1回のサロン活動をしており、たくさんの坂井原区民に参加していただいています。

今年度も残り少なくなりましたが1月、2月、3月の開催日と内容をお知らせします。一度も参加されたことのない方もこの表を参考にされて、おいでみて下さい。屋食は手作りの献立を提供します。

月日	10:00~	13:00~
1月7日	ドラワコさん 誰でも知っている歌謡曲を 目で取って楽しみます。	徳正寺さん 音楽療法です。
2月4日	坂下さん 体を使って脳トレをします。	東森さん 椅子に座ってのヨガを教え ていただきます。
3月4日	東森さん 本格的なヨガの先生です。 私達老人にもできるヨガを 教えていただけます。	尾羽根さん 絵の得意な先生です。 秋には、紅葉の絵を描きま した。

## ▶▶ 獣害対策協議会（4グループ）

駆除活動を本格的に始めて5年が経過しました。現在11名のメンバーで活動しています。

地域の狩猟後継者不足から、深刻な農業被害や人的・物的被害が増加し、少しでも捕獲することができれば被害が減少するのではないかと震の数を増やしてきました。10月現在までの捕獲数は、猪210頭、鹿169頭、小動物119匹（ヌートリア・アナグマ・テン・アライグマ・タヌキ・キツネ）です。

今年度から、三原市の制度が変更になり、捕獲から処分・報告までの全てを個人ですることになりましたが、坂井原自治区だけが協議会としてワンチームとして活動しています。

実施隊が組織され、市長から任命された隊員4名が

- ①被害相談対応
- ②環境改善対応
- ③防護柵設置指導
- ④有害鳥獣捕獲等

の活動を行政の指示で行います。

狩猟免許の取得に関心がある方は、ご相談ください。



## ▶▶ 令和7年 坂井原自治区夏祭り（1グループ）

本年度の夏祭りは、例年通り久井認定こども園での開催を予定していましたが、当日はあいにくの大雨となり、急きょ体育館に会場を移しての実施となりました。準備をしていた実行委員、地域の方々の連携と工夫により、急な変更にもかかわらず、安全で楽しいイベントを8月10日に開催することができました。

屋外の各地域出店屋台では、笑顔で「いらっしやいませ！」と元気な声で大雨を吹き飛ばしていました。子どもたちが、かき氷を頬張り、ボールすくい、射的にそしてイベントのお菓子拾いに興じる姿が微笑ましく、保護者の方も「雨でも来てよかったね」と話していました。

舞台では踊り、フラダンス、オカリナ演奏、カラオケで人々を魅了し、今年はMrマジックによるマジックショーやキッチンカーなど新しい試みにも挑戦しました。

雨にも関わらず多くの来場者があり、参加者の一人は「屋内でもこんなに楽しいなんて驚きました。むしろ、みんなが近くにいて温かい雰囲気でした」と笑顔で語っていました。

フィナーレは伝統的な坂井原盆踊り。42名の踊り手と来場者が近くで一体となり大いに盛り上がりました。

天候により会場は変更となりましたが、地域の恵みとなる雨でもあり、結果的には屋内でも工夫次第で十分に「夏祭りらしさ」を感じられるという良い例となりました。

今後も、地域の伝統と新しい楽しみをうまく融合させながら、より良い夏祭りを目指していきたいと思います。



# 坂井原地域ビジョン 経過報告

## ▶▶ 炭焼き（4グループ）

現在良い炭を焼くために窯の補修を予定しています。来年度実施に向けて計画中です。



## ▶▶ あじさい園（5グループ）

今年の5グループの活動は5月より毎月あじさい園内外の草刈りと手入れ、桜山の草刈と手入れは例年通り今も活動中です。

この例年通りの活動にプラスしたのがあじさい園の一角にピザ窯を新設したことです。

5グループだけで使うにはもったいないので、ご希望があればご家族・各グループ等にてお使いいただくことも可能です。ご一報下さい。

今年はあじさいも結構大きく育って来ましたので来年あたりは皆様にお楽しみ頂けるかと思います。





# ◇事例5◇みんなで取り組む「出身者」担い手づくり

祇園祭 7月 久井稲生神社  
記録的な速さで梅雨明けした  
影響で、気温30度を超える  
真夏日でした



夏祭り 8月 吉田コミュニティ  
三線クラブゆいまーのステージ  
三線の音色が沖縄の風を運んで  
きてくれたようでした  
沢山の方が来てくださり  
楽しいひととき  
なりました



冬ほたる 12月 吉田グランド  
26年続いた冬ホテルイルミネーションは、  
今年で有終の美を飾りました  
冬ホテルに係った全ての方に感謝いたします



## 詳細

### 交付金活用

印刷代、封筒、  
郵送費(切手)等

### 事例内容

- ・担い手不足から地域外人材の協力が必要→「地元出身者」をターゲット
- ・夏祭りや祇園祭など、地域の近況や活動をわかりやすく伝えるため、写真も多く掲載した広報紙「ふれあいだより」を作成
- ・「ふれあいだより」を地元出身者へ郵送し、ふるさとへの愛着の醸成を図る
- ・郵送方法では、各地域住民に「親族などの住所記入→郵送」の協力を依頼（役員は出身者情報の収集を行わず、作業負担の軽減を図った。）
- ・祭り当日には法被や雪駄などを準備し、参加者の受入体制を整備

### 意識していること・工夫

- ・夏祭りや祇園祭を「ふるさとへの接点の場」となるきっかけとしたい
- ・郵送は地域住民の協力を得て行い、住民の当事者意識を高めた

## 地域について

町内会名：吉田自治区

- ・人口：138人（65歳以上の割合：62.3%）【R8.1.31時点】
- ・基礎組織数：10組
- ・役員任期：2年
- ・役員会等の開催数：12回／年
- ・地域ビジョン：令和4年3月策定

## ◇事例6◇ 協力者を増やし地域運営



苧原自治区HP



### 詳細

#### 交付金活用

ホームページ  
管理費

#### 事例内容

- ・二拠点居住者の提案により、地域情報を発信するホームページ制作
- ・外部人材の視点から地域資源を再評価 特産品「あざみプリン」づくり開始
- ・担い手不足の中、外部人材が貴重な戦力→地域住民と協働関係
- ・地域内企業から地域貢献の申し出をきっかけに活動連携
- ・地域イベント(あざみマルシェ)開催 :丸善製菓株式会社協賛

#### 意識していること・工夫

- ・外部人材を“助っ人”ではなく“仲間”として位置づけ、企画事業には、地域側にも協働できる人材をつなげる(継続性確保)
- ・「前例がないから難しい」ではなく、まずは試す柔軟性を持つ
- ・小さく始め、協力者を増やしながら段階的にすすめる
- ・企業連携では、企業側の目的も理解した上で、依頼ではなく“相談”から始め対話を重ねる 信頼関係が大切

### 地域について

#### 町内会名: 苧原自治区

- ・人口: 89人 (65歳以上の割合: 55.1%) 【R8. 1. 31時点】
- ・基礎組織数: 5組
- ・役員任期 : 2年
- ・苧原自治区定例会 1回/月、役員会等の開催数: 4回/年
- ・地域ビジョン: 令和3年3月策定